

口蹄疫蔓延防止対策の充実強化を求める意見書

平成22年4月20日、宮崎県において10年ぶりに発生した家畜伝染病口蹄疫は、6月20日時点で発生件数291例、殺処分対象とされた家畜は199, 293頭となっている。

宮崎県では発生後、国及び県による防疫対策が講じられているが、事態の収束には至っておらず、このことは宮崎県だけでなく、全国の畜産関係者が多大な不安を感じている。

本市においては畜産農家が571戸あり、和牛4,470頭、乳牛5,493頭、豚1,014頭を有しており、畜産農家の密集率が高い淡路島の場合、万一、口蹄疫が発生すれば畜産農家に限らず基幹産業である農業全体が影響を受け、その被害は計り知れないものとなる。

ゆえに市内畜産関係者に対しては、口蹄疫に対する周知と防疫対策に取り組んだところである。

しかしながら、今回の口蹄疫の発生については、その原因及び感染経路が解明されておらず、感染拡大の懸念を拭い去ることはできない。

これらのことを鑑み、国におかれては、下記の事項について緊急に取り組まれるよう強く要望する。

記

- 1、口蹄疫の予防対策及び蔓延防止対策の強化・充実を図ること
- 2、口蹄疫ウイルスの感染経路を早期に解明し、今後の防疫対策の強化を図ること
- 3、「家畜伝染病予防法」及び「口蹄疫に関する特定家畜伝染病防疫指針」を早期に見直し、初動行動計画を明確にすること
- 4、被害農家に対する支援の充実を図ること
- 5、風評被害の防止対策の強化を図ること

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年6月28日

兵庫県南あわじ市議会議員 川 上 命

